

発行

角館中学校 PTA 広報部

印刷 / 膳写堂印刷

夢に向かって

総務部長 佐藤 文恵

「角館高校甲子園出場」このポスターが町内あちらこちらに貼られ、夢と感動を与えてくれたことは皆さんの記憶に新しいことだと思われます。

さて、今年度の総務部の企画として角館高校卒業生でもある俳優柳葉敏郎さんをお迎えして、去る十一月十二日角館中学校体育館において講演会を行いました。

柳葉さんのご友人でもある本校照井先生にコーディネートしていただき、より生徒に近い形での講演が終始和やかな雰囲気で行われました。

当日、会場に足を運んでくださった方や生徒より話を聞いた保護者の方は沢山いらつしやるとは思います。柳葉さんの俳優になられるまでのお話や柳葉さんの夢の後押しをしてくれた方はおばあさんだったこと等、普段テレビでお話にならないような細かなエピソードも聞くことができ、生徒達

にはとても興味深いことだったと思います。

柳葉さんの講演の中で、私が特に印象深かったのは、人は一人では生きられない、誰かに支えられ生きていくことの大切さのお話でした。

それは、家族であったり、友人であったり、上京された時にお世話になった方だったり。まさにこれから、自分の進路や夢に向かって行く生徒達への強いメッセージだったと思います。

この講演会が、少しでも生徒達の将来を考えるきっかけになつてもらえたらありがたいです。

今回の講演会を開催するにあたり、PTA会長さんをはじめ、先生方そして総務部の皆さんにはたくさんのご協力をいただき、無事終えることができました。感謝申し上げます。

(三A 正磨)

「すずかけの道」に寄せて

教頭 荒川 憲二郎



雪が解けて 芽吹く路のとう

春風に桜舞う ひのきない川

螢が飛び交い かえるの鳴き声

夏の空染め上げて 花火が散る

くじけそうになった時は

ふるさと 支えてくれるね

大切なもの かけがえのないもの

気がついた今日からは

生きてゆける

本校の卒業式でエンディングに歌われる「すずかけの道」の前半の歌詞です。作詞者は本田武久氏。一昨年、志半ばにして亡くなった本校出身のテノール歌手です。この歌詞の中に直接すずかけ通りは書かれてはいませんが、本田さんは病氣と闘いながら歌い続け、気持ち折れそうになったときに支えとなったのがふるさと角館の風景、懐かしい友だち、思い出深い学校生活ではなかったでしょうか。

角館中学校は今年三〇周年を迎えます。現在の校舎が建てられたのが昭和六十年です。しかしながらすずかけ通りの木が植樹されたのは昭和三十四年ということが分かりました。すずかけの木はあの場所で、五十年以上もの間、多くの生徒の成長をじつと見守ってきたのです。

私は校舎や校地の点検のため、よく校地内を歩き回ります。すずかけ通りを歩き、並木越しに校舎を見ますと、心が洗われるような感じを覚えます。この眺めはきつとこの校舎を巣立っていった多くの人たちの心の拠り所なのだろうな、守らなくてははいけないなと思います。

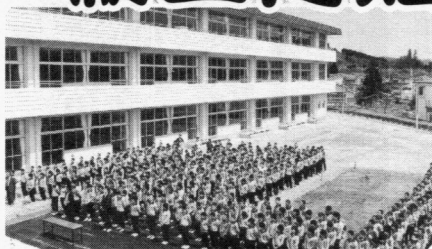
すずかけ通りは学校の顔。笑顔



であるためには、生徒の学校生活が日々充実したものであらねばなりません。すずかけの木が私に「責任をもつてしっかりとがんばれよ！」と囁きかけてくるような気がします。



おめでとう 新生角館中学校 30周年



角中生の活躍に期待

第一期生 仙波 睦

白岩中との統合で誕生した新生角館中学校。その一期生だったのが私達の年代、「大地」学年でした。あれから三十年、月日の流れの早さの驚きと、その頃から殆ど成長の見られない自分に悲しくもなりました。

当時の角中は今の倍、七百人を越える在校生がいたと記憶しています。私の友人の多くも皆、制服を个性的なものとし、今では考えられない言動で先生方も手を焼いたのではないのでしょうか。

今秋、娘の中学最後ということもあり、久しぶりに合唱コンクールを拝見しましたが、限られた時間の中での練習にもかかわらず素晴らしい歌声、パート別での独唱など、あまりのレベルの高さに感動しました。合唱の歌声を聴きながら私達の頃とは随分と環境は変わってしまいましたが、今も変わらず角中生が共通にもつ何か大きな力を感じることが出来ました。最後に角中生の皆さんに先輩?から一言。

これからも多くの出会いがある中で、中学生生活での友人は、この先とても大きな存在になると思います。その中でも「親友」と呼べる友人を得ることができたのは、私もこの頃のように思います。その友人を大切にし、いろいろなことに失敗を恐れずに勇気をもって挑戦して下さい。今の皆さんにムダ

な経験など一つもないのですから。角中三十周年、おめでとうございませう!さらなる角中生の活躍に期待しています!

(三D 菜々子)

統合の時の思い出

第二期生 鈴木 瑞穂

統合三十周年、おめでとうございませう。統合当時に二年生だった私にとっても嬉しい限りです。

当時の思い出は数多くありますが、特に印象的なシーンが二つあります。

一つめは、始業式の日。新校舎はまだ完成しておらず、古い木造校舎のギシギシと音の鳴る階段を上って新二年生の教室へと向かった記憶。新たに迎える白岩中の友人との出会いに緊張しながら教室に入って行きました。

二つめは、新校舎への引っ越し。新しいクラスメートとおしゃべりしながら、新校舎へ机を運んだこと。校舎の引っ越しという珍しい体験が、友人との距離を一気に縮めてくれました。

この統合時に同級生となった旧白岩中の友人とは、卒業記念に家にお泊まりさせてもらったりする程、仲良くなれました。

そして、現在。様々な場面面で、同期生のみならず、先輩後輩、そして先生方との繋がりをありがたく感じています。

ところで、角中の象徴とも言えるすずかけの並木は、私の父の世代が中学生の頃、植えたものだそ

うです。

子供達には、統合後三十年の歳月の積み重ねに加え、その前からの先人達から受け継いでいる伝統があります。子供達が新たな歴史を刻んで、この財産を次の世代に引き継いでいき、この後も、角中が悠久の歴史を紡いでいってくださることを願っております。

(二C 遥香)

未来を紡ぐ

第二期生 鈴木 光昭

三十周年、おめでとうございませう。三十年前の私は、丁度息子と同じ中学二年生。何か不思議な縁を感じています。時の流れの早さを感じながらも、昔と少しも変わらぬボブラ並木を見ると、新校舎へ登校していたあの頃が甦ります。当時は五クラスあり、一クラス四十二名の生徒がいたと思います。同じクラスには「すずかけの道」を作詞した本田武久さんがいました。個性豊かな友人が多く、いつも切磋琢磨していました。

この三十年で、子供達を取り巻く環境は大きく変化しました。物や情報が豊かになり、常に溢れています。便利になればなるほど、確かな物を選ばなくてはなりません。

人間形成にとって大切な中学校生活で、接する全ての人達との関わりが自立する大きな一歩につながっていると思います。それは時代が変わっても、今も昔も変わらないと信じています。子供達が安心して、



現在のすずかけの道



30年前のすずかけの道

角中三十周年にあたって

第五期生 能美 大輔

角中三十周年おめでとうございます。創立三十周年を迎え、す

未来の自分作りができるよう、家族や地域が連携しながら手助けをしていきたいと思っています。
四十年、五十年と角館中学校の古き良き伝統が続き、未来の仙北市の担い手が多く輩出してくれることを切に願っております。

(二C 希)

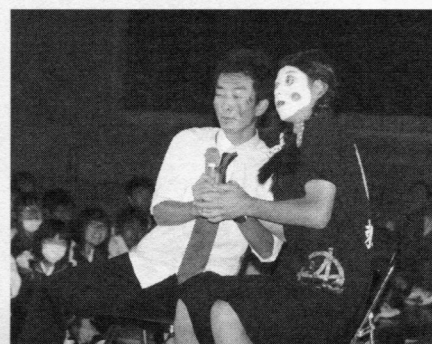
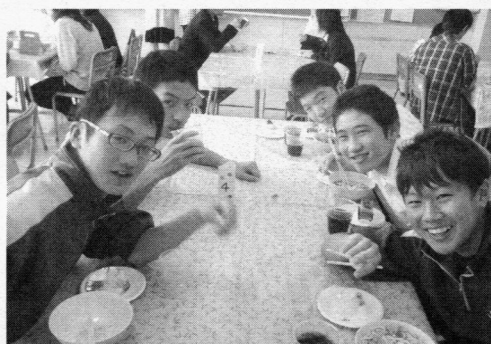
すずかけ祭にて、全校生徒が心を一つに三十分を超える「大いなる秋田」を歌い上げたことは、生徒にとって一生忘れない、いい思い出になったと同時に、会場に集まった大勢の方々に感動を与えたことと思います。

私は、平成元年に角館中学校第五期生「雄飛」学年として、二四名で卒業しました。当時は、第二次ベビーブーム世代(団塊ジュニア世代)で生徒が多く、私が一年生の時、在校生が約八〇〇人位いました。その当時、特に思い出に残っているのは、すずかけ祭前日に、三年生による仮装行列を行い、校舎玄関前にてミニ曳山を作り、激突し、盛り上がったこと。また、合唱コンクールでは、やったことのない指揮者として段に上がったことを思い出します。あれから、二十五年が過ぎ、今、仮装行列はなくなりましたが、合唱コンクールで息子が指揮をしている姿を見ながら、当時を思い出し、同時に時が過ぎる早さに驚いています。

三年生は、これからそれぞれの目標に向かい進んでいきますが、角中生の誇りをもち、「立志」「清純」「協和」の校訓のもと、志をもち、心清らかに、仲間と心をあわせ、一日一日を大切に歩んでもらいたいと思います。そして、将来、同級生と、お世話になった先生のこと、三十周年の活動・行事を思い出し、話に花を咲かせてもらいたいと思います。

(三D 泰樹)

すずかけ祭の思い出



さらなる活躍を

本 気

英会話部 渡部奈那緒

三年生の時に、まとめ役等初めての経験である部長になり、自分も苦労したし、部員の皆様の協力で、大イベントの「すずかけ祭」を無事終えることができました。

一年生入部時、一年女子一人という中「女の子の多い部活に移ったら」と言う、「一度入ったから続けたい」との言葉通りに三年間英会話部を続けてきました。スポーツ部のような、華やかさはありませんが、何かを一所懸命やり通すということは、とても大切なことだと思っています。

相田みつを氏の詩に「何にでもいいからさ、本気でやってごらん本気でやればたのしいから」とあります。これからの人生、本気



で取り組んでいってほしいと思います。(三D 愛)

「部活」を通して 本人が得たこと

科学部 鈴木 誠

中学に入学し部活見学をして本人が選んだ部活が科学部だった。初め聞いた時、飽きずに続けられるのかと少し心配もした。しかし本人が選んだのだから最後まで頑張るしかないと思った。

そして部活で何をしているか聞いたところ、自分の身の回りで不思議に思うことを調べ実験をし楽しく活動をしていると聞いた。それから研究発表会で賞を取ったりと頑張りが成果を生んでいた。そして三年になり部長という責任感のある人になった。今までと違う活動になるだろうと思う反面、親としては本人にしか得ることが出来ない経験をするだろうと思った。そして活動も終わり、今まで経験して得たことを次に生かしこれからも頑張っていきたいと思う。

(三D 海斗)



すずかけ祭と

国民文化祭

生活福祉部 富木 法一

すずかけ祭と言えば生活福祉部が胸を張って活動の成果を披露する最大の見せ場かと思っています。今年も手作りの財布にアクセサリとさまざまな手芸品を展示販売しておりました。商品を買って戴いたお客様に手作りクッキーを兼ねなくプレゼントするなど、付加価値をつけたサービスとそのアイデアに感心しました。また、今年は国民文化祭が秋田県で開催され、その一環として行われた『秋田の文学について知ろう』小中学生調べ学習コンクールでは、過去十年間先輩達が調べまとめた聞き書き『ふるさとに生きる人々』から学ぶという研究発表で団体特別賞を賜りました。これからは先輩後輩そして自分に誇れる部活動であってほしいと思います。

(三B 萌)



美術部に思うこと

美術部 佐藤 竜也

「絵が好き」と美術部への入部を決めた娘でした。学年が進むに連れ責任も大きくなり、イベント、制作活動、スケジュール調整や打ち合わせなど、思っていたよりやるべきことが多く大変だったと思います。「絵を描く、創る」だけではない活動に、作品を作り上げたときの喜びや嬉しさ、達成感はひとしおだったのではないのでしょうか。

人と同じく、絵にもそれぞれの個性があり表現が違います。これからも互いの作品を見合い、より

音楽を通じて得たもの

オーケストラ部 木元 康幸

音楽を通して、部員の中に和・輪が生まれ、それぞれが少しずつ成長していくことができたのではないかと思います。

活動を振り返ると、恒例の演奏会・コンクール・学校行事としての入学式・卒業式・野球応援と活動してまいりました。今年は市の行事としての「クニマスコンサート」に参加し、市内の中学、仙台フィルの皆様との貴重な演奏を行うことが出来たことは、とてもすばらしい思い出になったと思います。

今後のオーケストラ部のますますの活躍に期待しております。

終わりにご指導いただいた先生方、ご協力いただいた保護者の皆



様に心より御礼申し上げます。

(三B 聖)

よい作品に仕上げられるよう、協力して「美術」のよさを伝えていってほしいと思います。

(三C 璃茉)

